

要 望 書

国道 3 号植木バイパス

の整備促進について



国道 3 号植木バイパス・熊本北バイパス開通式(R5.2.5)
熊本西環状道路～須屋高架橋交差点間 (延長 2.7 km)

令和 6 年 8 月

国道 3 号植木バイパス建設促進期成会

国道3号植木バイパスの整備促進について

「国道3号植木バイパス」は、恒常的な交通渋滞の解消や安全性の確保のみならず、経済や社会活動を支える根幹的な社会資本として、熊本都市圏と県北部地域との相互交流・連携等、多彩な道路機能を有するなど、地域活性化のために極めて重要な役割を期待されています。

また、当期成会のほか、地域住民による『国道3号植木バイパス等の早期完成を進める会』や、山鹿市の経済団体が中心となる『国道3号植木バイパス（1工区）早期実現期成会』が設立されており、地域の期待や熱意も高く、早期全線整備に対する切実な願いが届けられています。

「平成28年熊本地震」では、九州縦貫自動車道をはじめとする幹線道路が被災・寸断され、国道、県道に深刻な交通渋滞が発生するなど、災害時における既存道路ネットワークの脆弱性が露呈されたところではありますが、特に九州縦貫自動車道植木ICから八代ICの通行止めにより、県北方面からの車両が一般道に流出したことで、国道3号をはじめ熊本都市圏内の主要道路が麻痺状態となるなど、災害支援等に大きな影響が生じたことで災害発生時の代替機能・ダブルネットワーク機能強化の観点からも、本バイパスの整備が非常に重要であることが再認識されました。

本バイパスについては、都市計画決定されている全区間9.3kmのうち5.6km（熊本市北区植木町鞍掛～同四方寄町）が平成11年度に事業化され、このうち2.3km（熊本市北区植木町鞍掛～同鏡田）が平成23年4月に暫定2車線で供用開始されたことにより、渋滞が緩和され、救急医療施設までの所要時間の短縮につながるなどの効果が生まれています。

また、「国道3号熊本北バイパス」と「熊本西環状道路」間の0.9kmについて、令和5年2月に暫定2車線で供用開始されたことにより、通勤時の交通混雑が緩和されたことと地域住民からの喜びの声が聞こえるなど一定の効果が表れています。

更に、本バイパスは、地域住民の生活道路としての機能のみならず、「国道3号熊本北バイパス」と「中九州横断道路 熊本北～下硯川（熊本環状連絡道路）」、「熊本西環状道路」と接続することで、幹線道路がネットワークとして有機的に機能し、熊本都市圏の渋滞緩和に大きく寄与するものであることから、事業中区間5.6kmの早期整備とともに、未事業区間3.7km（北区植木町鞍掛～植木インター付近）の早期事業化を望むものであります。

つきましては、次の事項について特段の御配慮をお願いいたします。

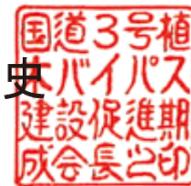
- 国道3号植木バイパス事業区間（5.6km）の早期整備を図ること。特に、未供用区間（2.4km）の早期供用開始に向け取り組むこと
- 国道3号植木バイパス未事業化区間（3.7km）の早期事業化を図ること
- 国道3号植木バイパスの整備のため、必要な予算を確保すること

- 資材価格の高騰や賃金水準の上昇に対して、社会資本整備に必要な公共事業関係予算を増額するとともに、令和7年度道路関係予算について所要額を確保すること
- 防災・減災・国土強靱化のための5か年加速化対策の最終年度となる令和7年度においても、必要な予算・財源を確保すること。また、昨今の地震・豪雨などの災害の状況も踏まえ、国土強靱化実施中期計画を令和6年内の早期に策定し、必要な予算・財源を別枠で確保すること
- 我が国の生産性を向上させ、成長力及び国際競争力を強化するほか、経済安全保障に寄与するためにも、高規格道路のミッシングリンクの解消やダブルネットワーク化など幹線道路ネットワークの構築を図ること
- 激甚化・頻発化する大規模自然災害の脅威・危機に即応するための地方整備局等の体制の充実・強化や災害対応に必要な資機材の更なる確保に取り組むこと

令和6年8月

国道3号植木バイパス建設促進期成会

会長 熊本市長 大西 一史



国道3号植木バイパス



国道3号植木バイパス建設促進期成会

会 長	熊 本 市	長	大 西 一 史
副 会 長	山 鹿 市	長	早 田 順 一
副 会 長	玉 名 市	長	藏 原 隆 浩
理 事	玉 東 町	長	前 田 移 津 行
理 事	南 関 町	長	佐 藤 安 彦
理 事	和 水 町	長	石 原 佳 幸
理 事	熊 本 市 議 会	議 長	寺 本 義 勝
監 事	山 鹿 市 議 会	議 長	服 部 香 代
監 事	玉 名 市 議 会	議 長	江 田 計 司